

平成 19年 12月

難波由喜子 学位論文審査要旨

主 査 大 野 耕 策

副主査 神 崎 晋

同 小 川 敏 英

主論文

Magnetic resonance imaging regional T1 abnormalities at term accurately predict motor outcome in preterm infants

(満期でのMRI T1異常は未熟児の運動予後を予測する)

(著者：難波由喜子、松井潔、相田典子、佐藤義朗、豊島勝昭、川滝元良、星野陸夫、
大山牧子、猪谷泰史、後藤彰子、岡明)

平成19年7月 Pediatrics 120巻 e10頁～e19頁

審 査 結 果 の 要 旨

在胎24週から34週で出生した未熟児の脳室周囲白質軟化症の診断を出産予定日近くで撮影した頭部MRIを用いて行い、その所見から推測される運動予後評価法を述べた論文である。T1冠状断の撮像を用い、皮質錐体路と関連した放線冠にT1強調画像で高信号の病変や嚢胞性病変が存在し、脳室拡大や脳室壁不整を伴う場合、高い感度、特異度で運動予後が不良であることを予測することができることを明らかにした。

本研究は、未熟児で出生した児が、将来、脳性麻痺になるかどうかを予測する上で、新知見を与え、その結果は周産期医学に直接貢献するとともに学術の水準を高めたものと認める。